

---

国立大学図書館協会  
マネジメント・セミナー  
「大学図書館と研究支援」

引原隆士  
京都大学図書館機構長・附属図書館長  
京都大学工学研究科



# 発言者の立ち位置

IEICE Fundamentals Review Vol.8 No.2

ファンド



特別  
寄稿

学術研究成果のジャーナル出版とオープン化  
Journal Publication and Open Access for Research Outcome  
引原隆士 Takashi HIKIHARA

学会  
運営, 編集  
OA論文

研究者



教員



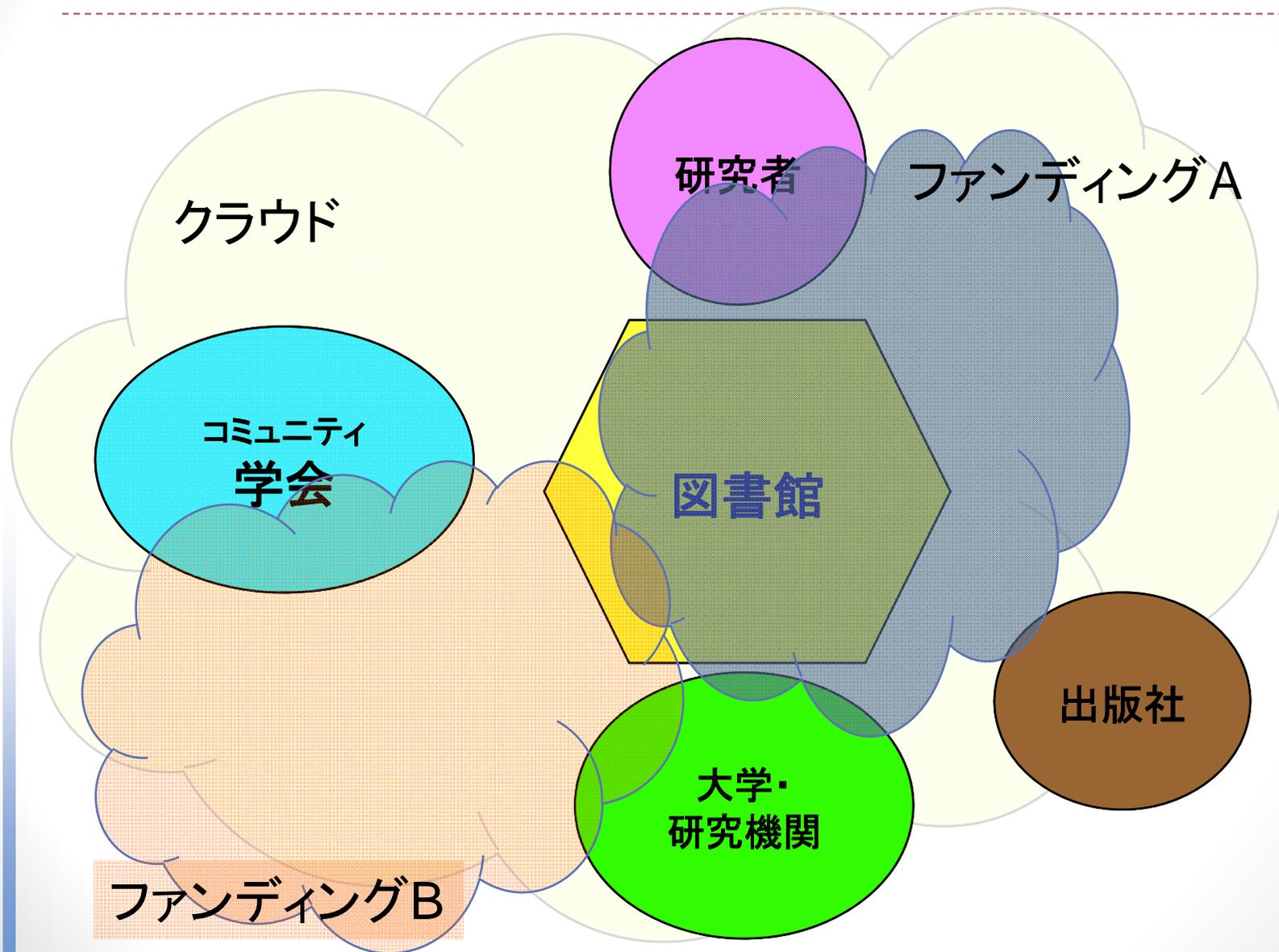
図書館関係者



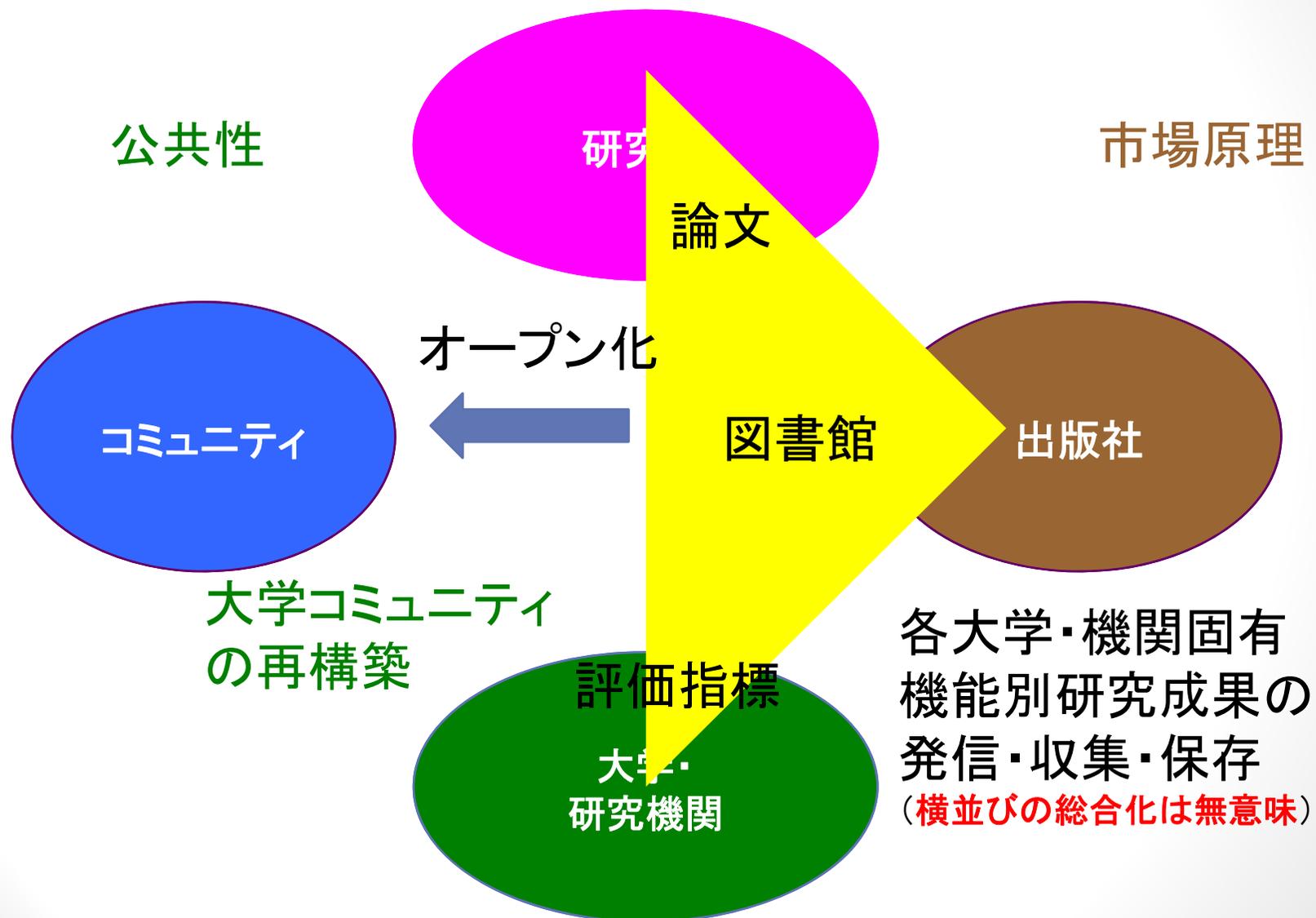
大学執行部



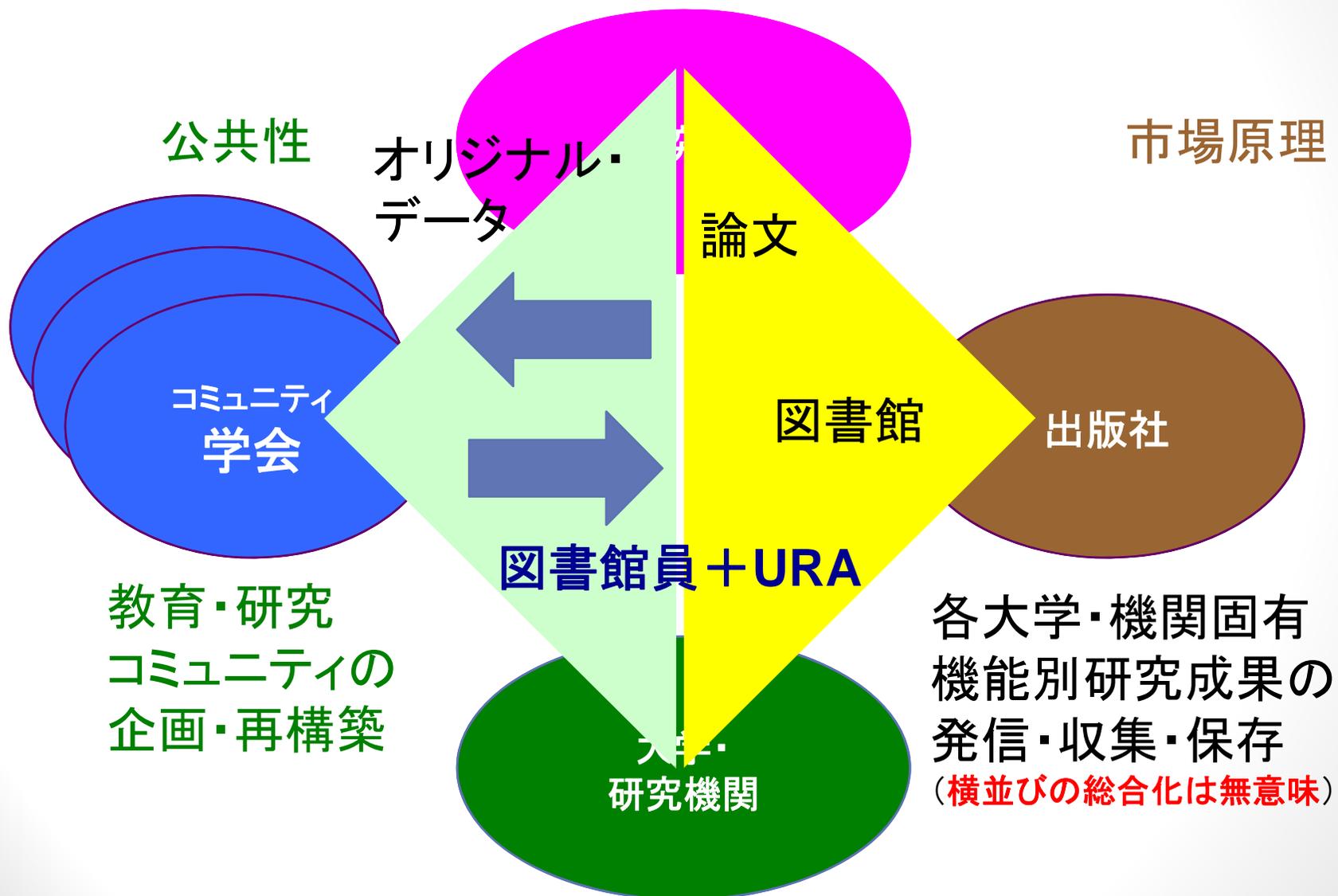
# 図書館をめぐる状況（概観）



# オープン化と図書館



# 図書館から見た立ち位置



# 大学図書館の立ち位置（まとめ）

## 大学図書館の意義

大学の目的実現を支援するための手段

## 大学図書館の目的

学術情報の生産・発信

## 大学図書館の役割

学術情報の生産・発信の直接的な支援

学問の継承と創生への支援

## 学術情報のオープンアクセス

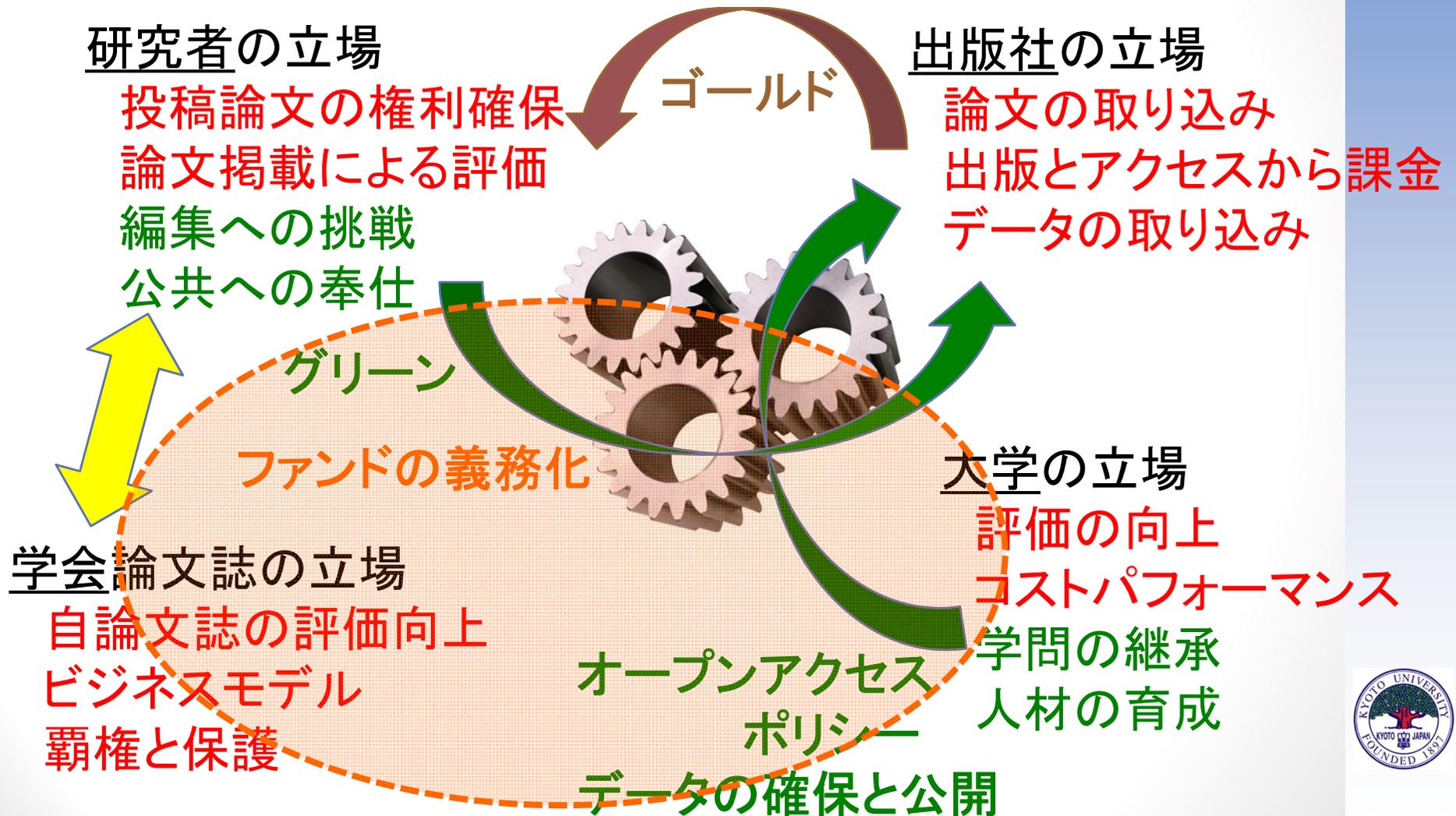
研究支援の強化への大学図書館の役割の具現手段

## 収集・整理・保存の前提となる方法

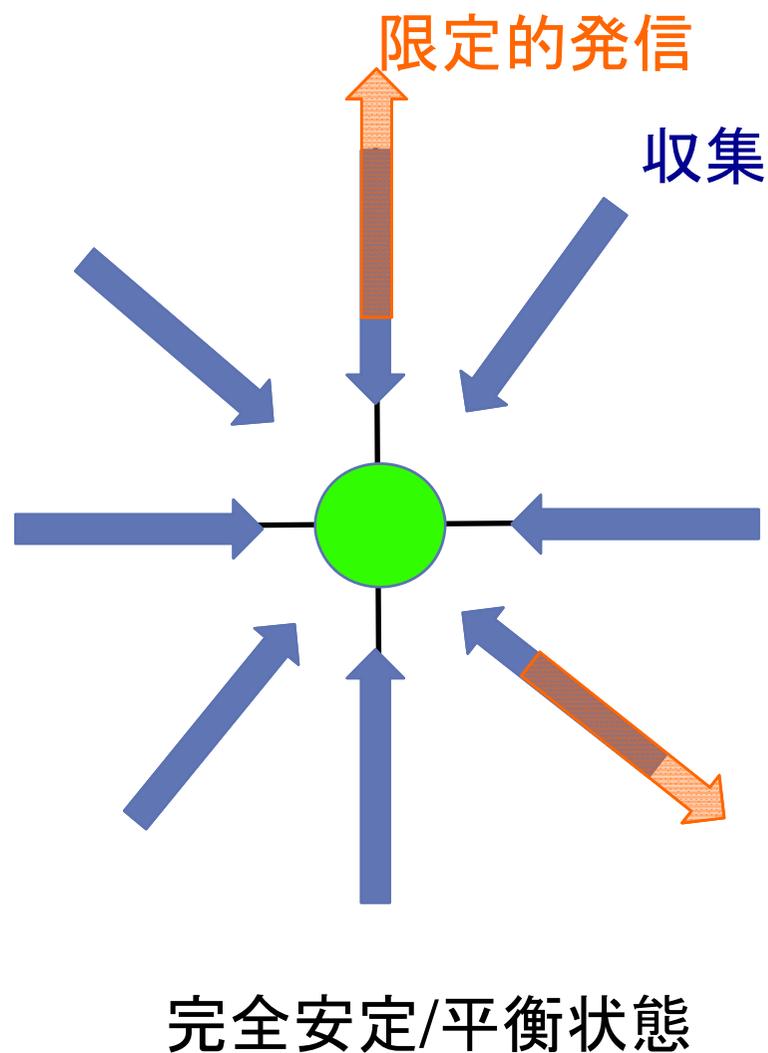
生産・発信の支援に向けて不断の見直しが不可避



# オープンアクセスとステークホルダー



# 図書館の収集/発信のあり方（静的）



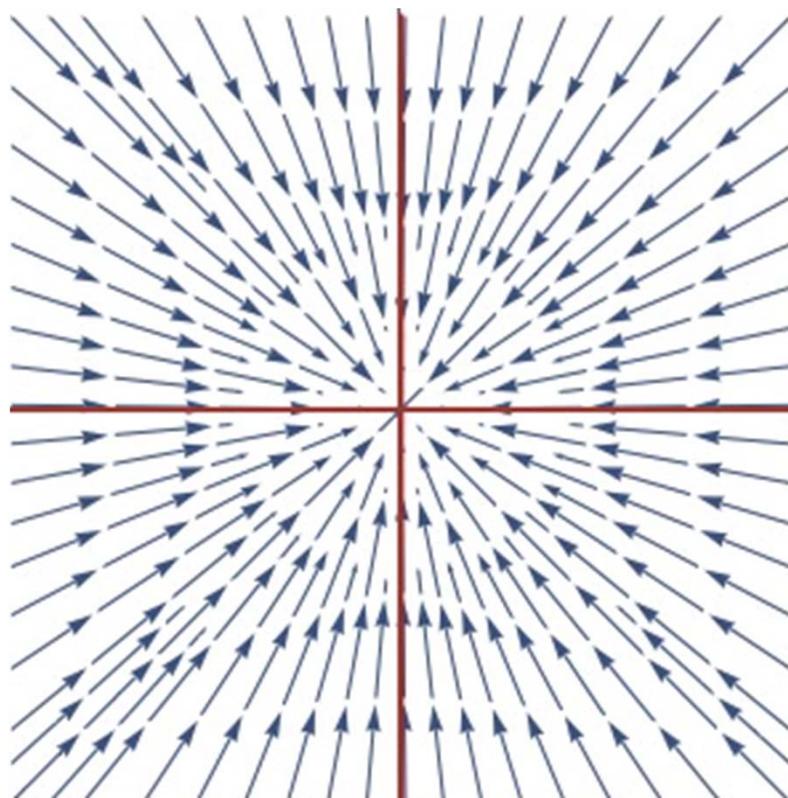
長時間が経つと  
留まってしまう性

サブジェクト・  
ライブラリアン？



# 図書館の収集/発信のあり方（静的な結末）

<フロー>  
学術情報  
人材  
システム技術



長時間が経つと  
留まってしまう性



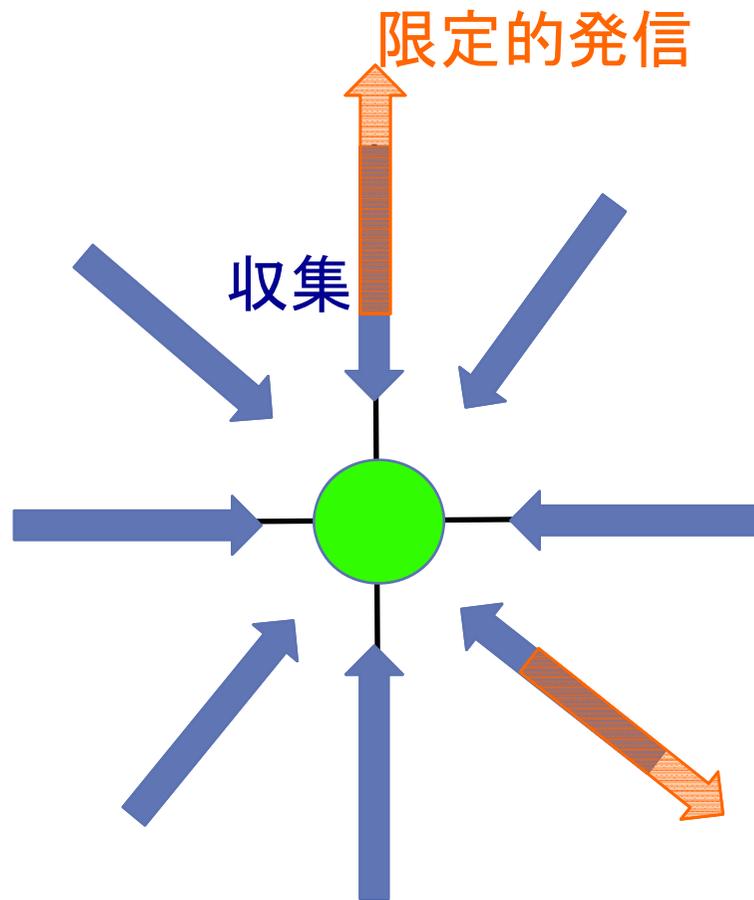
静かな職場  
安定な職場  
非効率  
対応力欠如



研究者・教員に  
ルール遵守！  
（怖い司書）

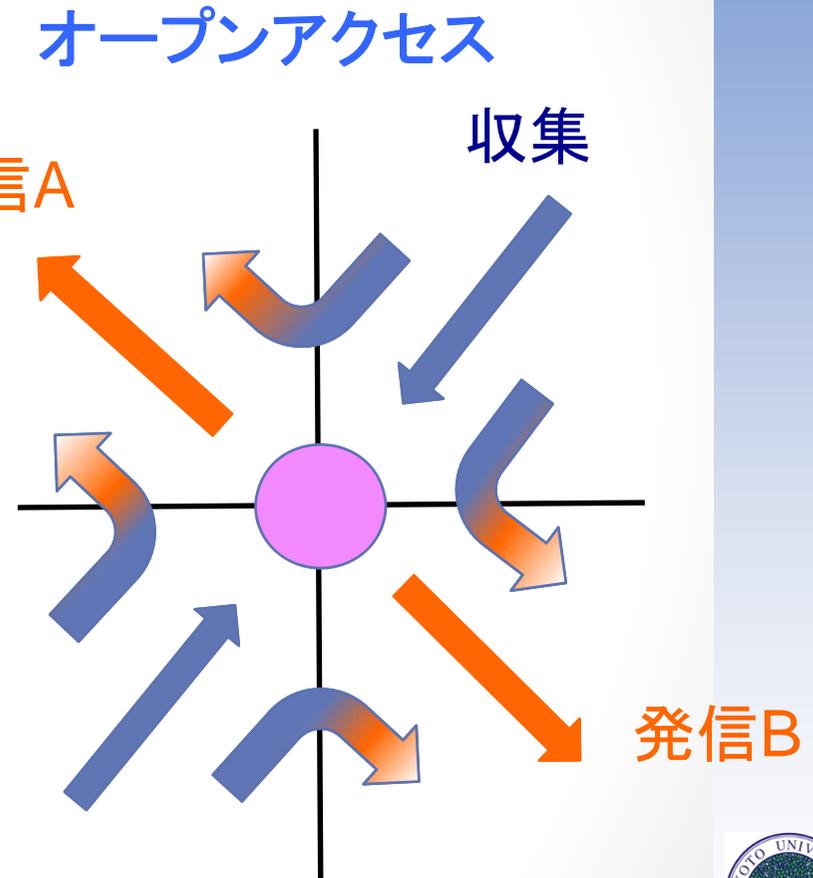


# 図書館の収集/発信のあり方（静的から動的/ローカル）



完全安定/平衡状態

リスク  
を取る

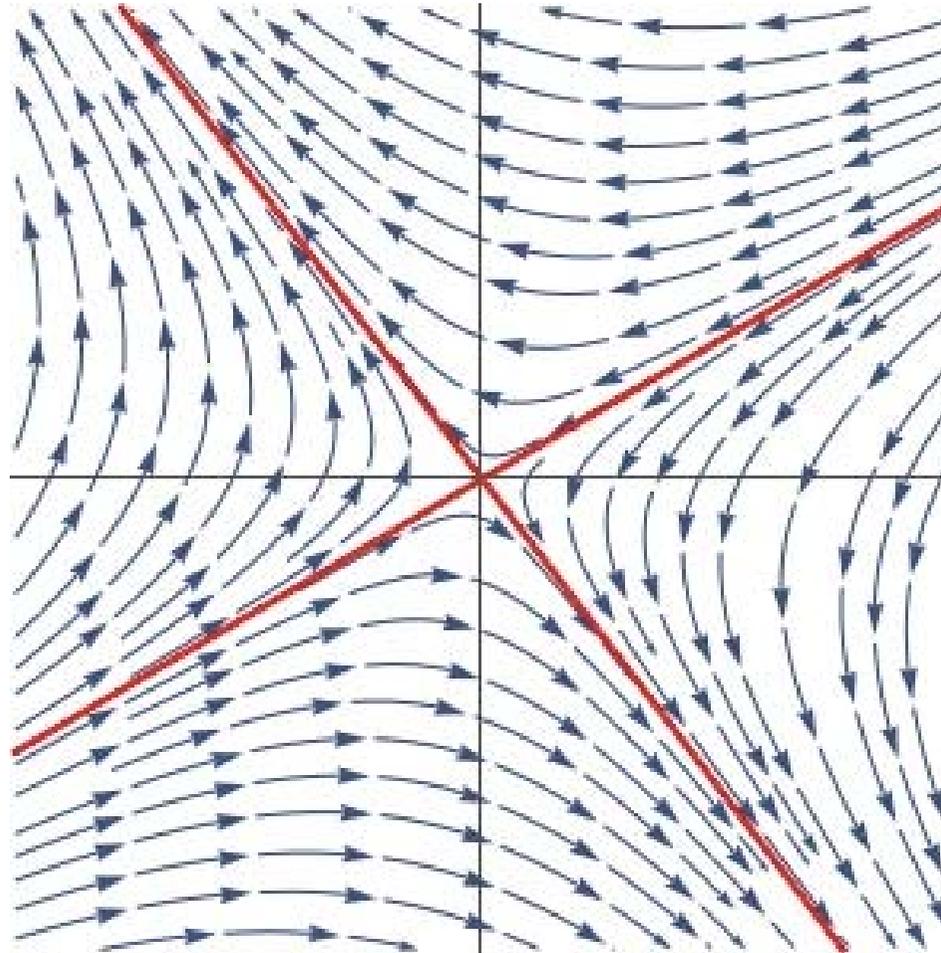


双曲的不安定



# 図書館の収集/発信のあり方（静的から動的/ローカル）

発信A



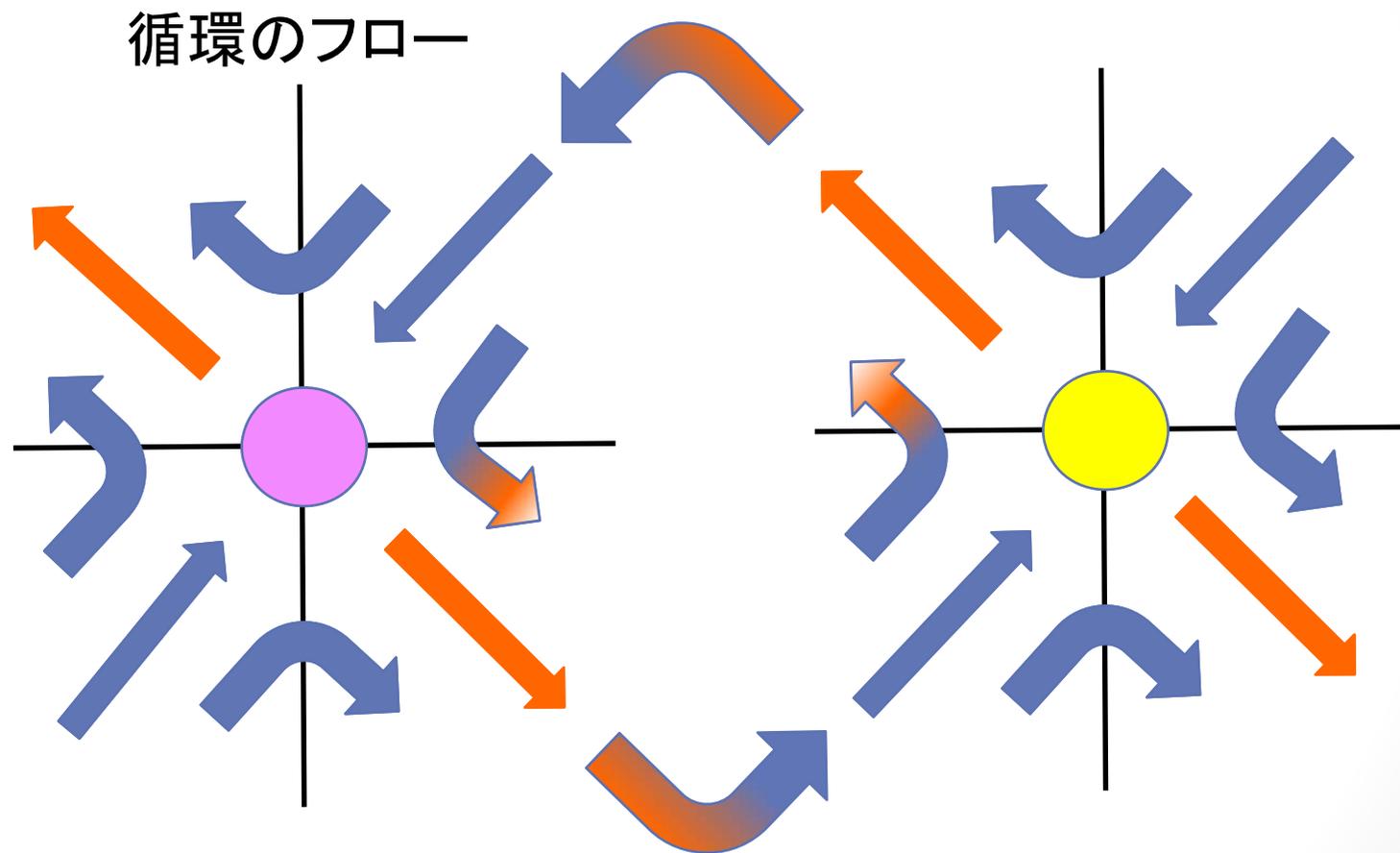
発信B

組織全体として  
方向性を示して  
収集/発信



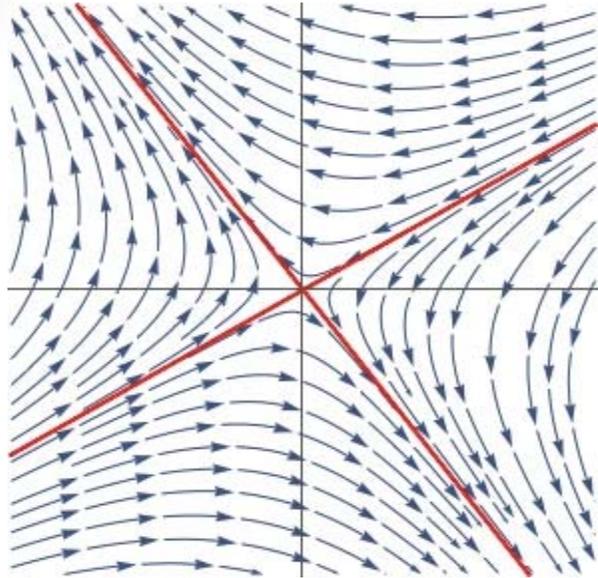
不安定化が  
機能性を生む

## 図書館の収集/発信のあり方（動的/グローバル）

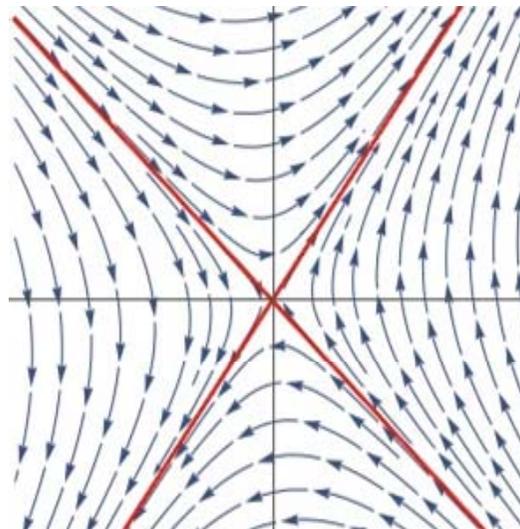
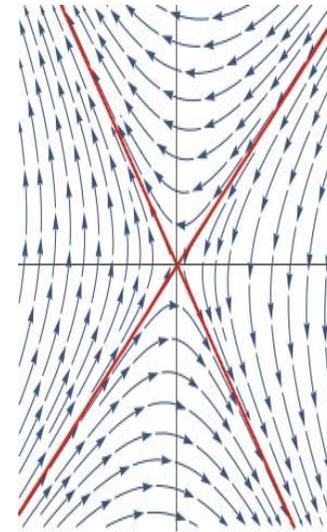
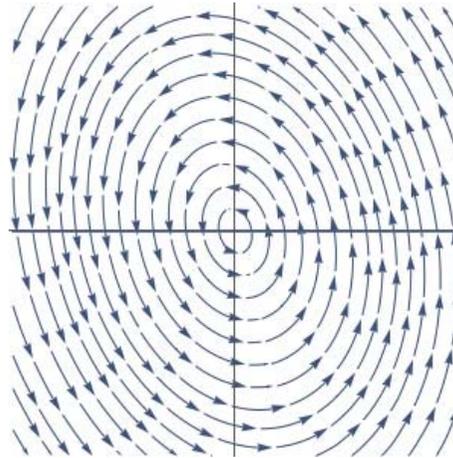


ヘテロな循環を生み出す核とする手段がオープンアクセス

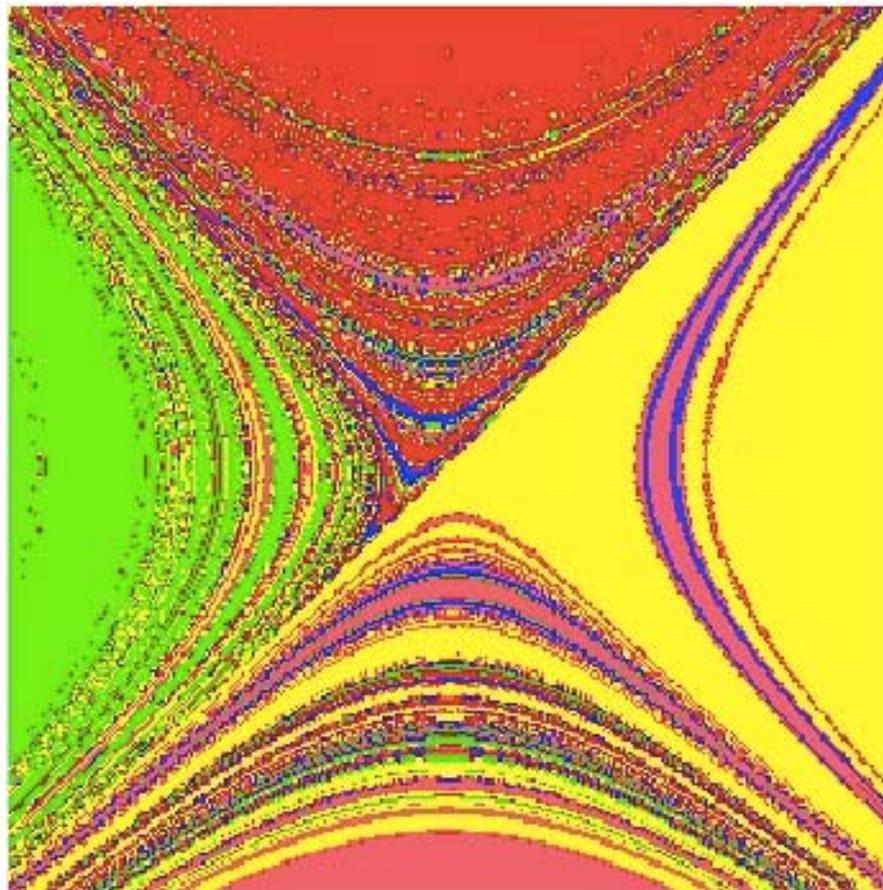
# 図書館の収集/発信のあり方（動的/グローバル）



新しい特異性  
が生まれる.



# ヘテロが生む多様性と可能性



外乱



コントロール

ポテンシャル集中



不安定化/機能の発現

エントロピー  
多様性

## (付録) 京都大学図書館機構のミッション

- 京都大学図書館機構
  - 京都大学の基本理念に基づき、
  - 世界最高水準の教育・研究拠点に相応しい学術情報基盤としての役割を担うことを使命とする。
  - 将来にわたって、京都大学における教育・研究活動を支援し、かつ国内外の学術コミュニティに貢献するために、
  - 人類の知的資産である学術情報資源や新たに生み出される知的成果を不断に収集、整理、保存し、関連する情報を発信するとともに、
  - 常に最上質の先進的情報サービスを研究開発し、提供する。
- そのため、京都大学図書館機構は以下の目標の実現をめざす。
  - 学生・教職員のニーズを把握し、それに応えることを最優先する。
  - 学術情報を適切に選定、収集、整理し、必要な研究開発を行い、それらへの最善のアクセスを提供する。
  - 京都大学が日々創造する世界的に卓越した知的成果の蓄積・発信を行う。
  - 保存管理体制を整備する。
  - 質の高い利用者支援システムを構築する。
  - 図書館利用者が学術情報を有効かつ快適に活用できるように、全ての図書館スタッフのスキルおよびモチベーションの向上と、設備、施設の充実を図る。
  - 京都大学図書館機構を構成する組織は、相互に、また関連する学内組織との間の協力関係を強化する。
  - 国内外の図書館と連携し、相互協力するとともに、社会と地域に貢献する。



# (付録) 大学図書館の概念図：学内成果の蓄積・発信

